

第444回鉄鋼流通問題懇談会

2018年4月24日（火）13:00

茅場町「鉄鋼会館811号室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北、新潟地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇4月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2018年7月 日（ ）14:30～

於：茅場町「

」

発表項目	発表者	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (京況感)	伊藤忠丸鉄鋼	2018年2月末の薄板三品在庫は11月末比0.6%、2万5千5千トンの減少となり、3ヶ月ぶりの減少となった。例年1月をピークに在庫は減少傾向をたどるが今回減の90万トンを越え、在庫内訳はメーカー在庫が7万7千トンの減少、1万2千トンの増、問屋が1千トンの増、83万3千トンの在庫、問屋が1千トンの増の139万トンの減少分ほとんどがメーカー在庫によるもの。品種別では熟延が1万トンの増、2万3千トンの減、冷延が1万3千トンの減、79万8千トンの増、表面処理鋼板が5万2千トンの減、128万5千トンの増、自動車向け需要が堅調であることから相対的に表面処理鋼板のタイト感が強い状況となった。堅調な自動車向け需要に加え、東京五輪関連の建設需要の本格化もあり、国内需給動向はしばらくタイトな状況が継続するものと思われる。	2018年2月末の厚板在庫は384千ト、前月比3千ト減、受入れは増えたが、出荷が受入れ量を上回った結果、在庫減となった。在庫率は前月比9ポイント下がり230.2%となったが、適正と言われる200%には至っていない。3月は稼働日数増の影響により2月より出荷増の傾向にあるが、在庫に不足感はなく、店売分野は総じて低調のまま。	棒鋼 足下の需要少なく荷動き低調、鉄鋼の弱基調から、セコは様子見状態にあり、当用買いに徹している。各メーカーの採算は悪化しており、市況上伸が望まれる。形鋼 鉄骨物の需要は旺盛ながら、工事の遅延、季節的要因もあり、足下の荷動きは低調。市中在庫は、増加傾向ながらも市況は強基調横ばいで踏ん張っている。
2. 需要産業動向		2018年2月の自動車生産台数(85.0万台) (前年同月比△0.0%) 2017年4月～2018年累計 8,737千台 (前年同月比+3.7%) 国内若干減、輸出は新興国向けに底堅く推移。 ・建産機: 18年2月の建設機械総出荷額/2,180億円 (前年同月比+6.2%) (国内△7.2%、輸出+14.8%) 建機は輸出好調 (特に中型ではインドネシア、インド、北米が好調、大型も好調)。 ・建築: 18年1月 住宅/6.6万戸 (前年同月比△13.2%) 18年1月 非住宅/393万m ² (前年同月比△6.8%) 都内の非住宅は増加傾向だが、全国的に見ると住宅、非住宅共に若干減。今後の動向に注意を払う必要がある。 ・土木: 18年1月 公共土木工事受注額/5,553億円 (前年同月比+1.9%) 18年1月 民間土木工事受注額/2,544億円 (前年同月比+21.5%) 2017年度の公共土木工事は前年度比ほぼ横ばいの見込み。 民間工事は前年度比若干増の見込み。 ・造船: 18年1月 起工量/811万G/T (前年同月比+8.4%) 18年2月 輸出船契約量/90万G/T (前年同月比+37.1%) 18年2月 手持工事量/2,682万G/T (前年同月比+1.8%) 造船は持ち直し傾向ではあるが、世界的に船舶過剰状態、16年度より改善は見られるもの、厳しい状況は続く見込み。	造船の2月末手持工事量は前月末比1.8%増の2,682万G/Tと3か月ぶりに増加。3月末の手持工事量は2,723万G/Tで2ヶ月連続で増加した。造船の受注については、大手を中心に底打ち感はあるものの、韓国国の受注も増え、思うようには受注集数を伸ばせていない。建設機械の2月の出荷金額は国内744億円 (前年同月比7.2%減)、輸出は1,436億円 (14.8%増)、総計は2,180億円 (6.2%増) で16ヶ月連続の増加となったが、排ガ規制の前倒し需要も終了し伸びは鈍化している。産業機械の2月受注金額は国内3,113億円 (前年同月比36.4%増)、輸出は859億円 (8.6%減)、総計では3,972億円 (23.3%増) となった。建機、産機ともに総体的には底堅い状態にあるが、基幹部品がタイトとなり部品待ちによる生産調整を余儀なくされているケースもある。鉄骨は首都圏再開案、五輪関連案件の需要が着実に出件されており、鉄骨、橋梁ともに今年度は昨年度並みの需要が見込まれているが、工事の遅延、延期が続いており、店売マーケットの停滞にも響いている。	2月の全建築着工床面積は前年同月比2.5%減の1008万㎡となり3ヶ月連続で減少した。襖造別では鉄骨造 (S造) が前年同月比7.6%減の370万㎡、鉄筋コンクリート造 (RC造) は、前年同月比31.0%増の179万㎡、鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC造) は前年同月比477.9%増の68万㎡。推定鉄骨需要量はS造が37万ト、SRC造は3万4千トで合計40万4千トとなる。 新設住宅着工戸数は、前年同月比2.6%減の69,071戸となり前年割れは8ヶ月連続。うちマンションは前年同月比3.4%増の19,023戸で3ヶ月振りに増加した。非住宅分野の着工床面積はほぼ横ばい。倉庫は再び増加して111万㎡。工場は7ヶ月振りに減少して77万㎡。
3. 輸出入動向		2月の普通鋼鋼材輸入量は39万1千ト (前年同月比+1.5%)と2ヶ月ぶりの増加となった。薄板三品では熟延が12万6千ト (前年同月比+20.4%)と7ヶ月連続、冷延が7万2千ト (前年同月比△3.0%)と2ヶ月連続で減少、一方、亜鉛めっきは7万5千ト (前年同月比+36.3%)と10ヶ月連続で増加した。普通鋼鋼材輸出量は188万9千ト (前年同月比+8.2%)と3ヶ月ぶりに増加した。薄板三品では熟延が89万ト (前年同月比△15.7%)と12ヶ月連続、亜鉛めっきが22万5千ト (前年同月比△15.0%)と9ヶ月連続、冷延が17万5千ト (前年同月比△14.6%)と2ヶ月ぶりに減少となった。	2月の輸入通関実績は前月比4.5千ト増の55千ト。韓国からの入着が6.6千ト増となった。2月の輸出船積実績は186千トで前月比45千ト減となった。韓国、中国向けで34千ト減となった。	H形鋼の輸出 2月の輸出量は15,966トで前月比24%の大幅減となった。前年同月比は3%増で6か月連続の増加。平均価格は168,265円で前月比271円の値下がり。H形鋼の輸入 2月の輸入量は5,921トで前月比48%の大幅減、前年同月比では2%減で前年同月比では3か月連続の減少。平均価格は168,289円で前月比2,668円の値上がり。
4. 海外市場動向		<油井管> 原油価格(WTI)は、1バレル68USドルを超えて、ほぼ、安定して推移している。USAのグリグアウトも最近1,000機を超える水準に達し、堅調に推移しており、油井管需要は今後も北米のシェールオイルや中近東産油国を中心に緩やかに回復していくことが期待される。一方で、米国通商232条の行方によっては大きく市場への影響を及ぼす事になる。また、シリア情勢やアメリカの対イラン政策等、国際情勢の変化を見ながら、国際市況を注視していく必要がある。 <ラインパイプ> 2018年下半期の大径管案件が少なく需要は弱い、油井管の回復傾向を受け19年以降の案件に動きが見え始めた。中国は需要が回復し国内ミルの受注増、北米は通商問題で日本からの輸出は制限有り、中東の一部での需要は堅調なるも国内ミルとの競合が予想される。	中国では4～6月期は例年不常期であり、米国との貿易摩擦の影響度合いなど不透明な要因もあるため、市況は弱含みで推移。秋需が動き始める7～9月期まで相場が本格的に反発するのは難しい状況と予想される。	中国国内の鋼材市況は上伸基調。インフラ整備や不動産工事の増加に伴い、市中在庫が減少し需給が引き締まっている。米国との貿易摩擦の直接的影響は小さく、鋼材市況は上昇基調が続く見込み。上海での異形棒鋼の現物市況は3700元と1週間では1.1%高の2週連続で上昇。先物市場でも3週間で8.6%の約5600円上昇。
5. トピックス				

発表者

発表項目

1. 需給動向（景況感）

（国内）・日本経済は緩やかな回復基調を続けている。3月の日銀短観では、大企業製造業の景況感が8四半期振りに悪化したものの、高水準が継続している。

- ・家計部門については、2月の小売業販売額が4ヶ月連続プラスとなる等、個人消費には持ち直しの動きが見られ、雇用環境も引き続き堅調となっている。
- ・部門別活動状況は、製造業部門は自動車生産が2ヶ月振りに前年水準を上回ったほか、機械生産も国内外の堅調な需要を背景に、産業機械が19ヶ月連続、電気機械が16ヶ月連続で前年同月比増となった。

また、建設部門は民間土木向けを中心として安定的に推移している。

- （海外）・米国は依然堅調、欧州は総じて底堅く、中国も内需が堅調に推移している。
- ・ASEAN諸国も全体的に緩やかな回復傾向が続いているものの、米国の保護主義的通商政策が世界経済に与える影響に留意が必要となっている。

<国内鉄鋼需給>

- （生産）・17年度粗鋼生産は前年度比微減（▲0.3%）の1億484万tとなった。
- （出荷）・2月の普通鋼国内向け出荷は379万トン（前年同月比+2%）で2ヶ月振りに増加。一方、輸出向け出荷は183万トン（同▲1.2%）と16ヶ月連続で減少。
- （在庫）・2月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は580万トン（前月比▽6万トン）、3ヶ月振りに減少。
- ・2月末の薄板3品在庫は412万トン（同▽3万トン）、2ヶ月振りに減少。
- ・2月末の厚板シャヤー在庫は38万トン（同▽0万トン）。4ヶ月連続で前月比減少。

2. 需要産業動向

- 〔建築〕・2月の新設住宅着工戸数は6.9万戸（前年同月比▲3%）で8ヶ月連続の減少。分譲は増加も、持家・貸家減少。
- ・非住宅着工床面積は436万㎡（同+0%）で3ヶ月振りの増加。鉱工業用、商業・サービス用は減も、公益事業用等で増。
- 〔自動車〕・17年度の国内販売は485万台（前年度比+2%）で2年連続の増加。軽の前年比+8%が牽引。
- ・2月の完成車輸出は41.7万台（同+1.1%）で4ヶ月連続の増加。北米・欧州・アジア向け等堅調。
 - ・2月の四輪生産は85.6万台（同+1%）で2ヶ月振りの増加。
- 〔造船〕・17年度の新造船受注量は996万GT（前年度比+108%）の受注。一方、18年3月末の手持工事量は2,723万GT（前年同月比▲5%）と漸減継続。

3. 輸出入動向

- 〔輸出〕・2月の全鉄鋼輸出は301万トン（前年同月比▲6%）で13ヶ月連続の減少。韓国、中国、ASEAN向け等で減少。
- 〔輸入〕・2月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合鋼計）は45万トン（前年同月比+2%）で7ヶ月振りの増加。
- 中国が7ヶ月連続減少（同▲1.4%）、台湾が3ヶ月連続減少（同▲2.2%）も、韓国は2ヶ月振りに増加（+6%）。

4. 海外市場動向

- ・2月の世界粗鋼生産は、中国やインド、米国等で前年同月比増加、1億3,179万トン（前年同月比+4%）となった。
- ・3月の中国粗鋼生産は7,398万トン（前年同月比+3%）、日当たり239万トン。3月中旬の環境規制減産終了に伴い生産量増加。
- ・3月の中国鋼材輸出は565万トン（前年同月比▲2.5%）、20ヶ月連続で前年同月比減。内需堅調で低水準継続。